

グローバルな四柱推命の活用の可能性

四柱推命は古代中国でうぶ声を上げ、日本へ伝わってきたものであるため、漢字文化圏である中国、韓国、そして日本という、ローカルな運命学である。陰陽五行論は、自然と人との関わりを記述するものであるが、大変限られた自然環境の中でしか論じられてこなかったことになる。

しかし、四柱推命での四季という概念は、日照時間の長短をもとにして考えられているので、世界中どこであっても通用するはずである。ただし、南半球の場合、中国、日本とは四季の巡りが反対になるため、その点は考慮しなければならぬことになる。

季節の変化は、地球の公転運動に依存する変化なので、四柱八字の年月の支を冲となる支に変換すればよいであろうと推測される。つまり、日本で寅年寅月の場合は、南半球では申年申月となるということである。節入の時刻は太陽の黄経によって定義されているので、南北半球共通であり、当然、日時 of 干支は何も変化はなく共通であることになる。

しかし、四柱推命を海外で生まれた人に適応しようとすると重大な問題が存在することに気がつく。それは日付変更線である。現在の日付変更線は、世界標準時の基準点であるイギリスのグリニッジ天文台からできるだけ遠くになるように、1884年に人為的に定められたもので、干支暦とは何も関わりがない。グローバルな形で四柱推命を活用するには、干支暦独自の日付変更線を定める必要があることになる。

この問題には不明な点が多くあるが、一応仮説のようなものを考えるこ

とはできる。それは人類の起源にまで時代を遡って考えることになる。

現在、遺伝子の研究により人類の起源は、アフリカのナイル川の上流に生活していた人類にあることが明らかになっている。現在の地球上のすべての人類は、すべてその狭い範囲からスタートして、世界中に移り住んだのである。

ここで思考実験を試みることにする。この思考実験は、16世紀の大航海時代に、西回りに世界を一周すると日付が1日消えてしまうという、船乗りが陥ったパラドックスをもとにしている。

以下略